

(令和6年9月10日 午前10時01分 開始)

○議員（中村 昭人議員） おはようございます。通告に従い一般質問を行います。

まずは、お亡くなりになられました東高士前町長に対しまして、お悔やみを申し上げます。

さて、川南町ではこれまでの町長選挙は、統一地方選挙として議会議員選挙と同時に行われてきましたが、今回は、前町長の辞職に伴い単独での選挙戦となりました。

また、今回の選挙は前回から1年3か月しかたっておらず、しかも、短期決戦となり大変難しい選挙であったのではないかと思います。両陣営にとって、知名度の向上や政策の浸透など地盤培養には大変御苦労があったのではないのでしょうか。

そのような中で、当選を果たされた宮崎町長ではありますが、得票数を見ますと4,426票を獲得されました。これは、川南町の現状を憂い、誇れる町にしてくれと言った多くの願い、その期待の表れだと思います。町長は、その選挙戦を通じて川南町の課題は何だと感じましたか。お伺いをいたします。

そして、今回も選挙前には幾つかのビラが町内に広く頒布され、中には名誉を毀損する内容も含む文章もありました。これには多くの怒りの声が聞かれました。投票率にも影響したのではと思います。町長は一国のリーダーです。選挙で誰がその座にふさわしいのか、どのような政策を優先するのかによって、町の未来は左右されるのです。誹謗中傷や根拠のない一方的な主張などの風評が表立ってしまうと、そういった町の課題や町の将来に対する議論が広がらないことにつながります。こういった状況は誠に残念であります。そのようなビラなどには左右されず、宮崎町長は期間中に座談会を企画し、町民の声を拾う努力をされました。このような姿勢は評価されるべきだと考えますし、このような、町民が候補者の政策や人柄に触れる機会が増えることを期待したいものです。

そこで質問ですが、選挙戦を通じて御自身の掲げたマニフェストを十分に訴えることができたか、お伺いをいたします。

残りの質問は質問席から行います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中村昭人議員の質問にお答えいたします。

川南町の課題はということですが、今回選挙に際して、また町長に就任してから川南町にとっては様々な課題があります。

ただ、ここで私が課題として皆さんにお伝えしたいのは、私が町政を進めるのにどうしてもクリアしなければならない課題として伝えたいと思います。私は、講演会活動から選挙戦まで、輝き、魅力あふれるまちづくりを掲げてまいりました。この言葉の意味をちょっと説明したいと思います。輝きとは、町民一人一人が自ら考え、自主的に行動

することで自ら光り輝き、周りの方々も照らしていくこと、積極的に行動することと考えています。そして、町民の皆様の思いが一つになったときには、必ずすばらしい川南町を築いていけると信じています。町民の皆様と一緒に力を合わせ協力していくことが、私の目指す、輝き、魅力あふれるまちづくり実現に大きな力になると思います。

また、マニフェストが十分に伝えることができたかということですが、選挙活動期間が約1か月ほどしかなく、ミニ集会や各団体にできる限りお話しに行きました。が、自分の思いを町民の皆様に伝えることは非常に難しく感じました。そこで、選挙に際して討論会など政策を発表する場があればよいなと思いました。

以上で、私の答えといたします。

○議員（中村 昭人議員） それぞれの課題というより、これから取り組むべきこと、そういったことを地道に進めていきたいというような思いだということだと思います。その中で、今申した中で、ちょっと2つ伺いをしたいと思います。

地域の座談会やミニ集会ということだったと思いますが、これをどのような形で開いていくとお考えなのか、それがまだ決まってないのかもしれませんが、現時点でのお考えがあれば伺いいたします。

○町長（宮崎 吉敏君） 質問にお答えいたします。

地域座談会、またミニ集会を開催し、町民の皆様との対話を重視し町政を進めていきたいと思っております。

地域座談会については、まだ、すみません、まだ、できれば定期的にと考えているんですが、これが私の考えでは2か月に1回というふうに今、考えております。

ただ、ミニ集会については、各地域でいろんな方々が集まる場があると思うんです。そういったところにはお声をかけていただいて、行事等がなければ優先的に伺いし、その地域の皆様のお話、御意見等を承ってしっかりと町政に生かしていきたいと考えています。

以上です。

○議員（中村 昭人議員） 2か月に1回、定期的に開催をしていきたいということですが、前町長におかれましても、積極的に精力的に地域を回られて座談会等を開催されておりました。地域の声を聴くということは、地域それぞれにある課題等に対処していく上では非常に重要な機会になるかなというふうに思いますので、ぜひ有効にそういった機会を活用していただきたいと。

また、どのような形で開くのか等決まったら、町民にお知らせをいただきたいなというふうに思っております。

もう一つが、クリアしなければならない課題ということで申されたと思いますが、一つちょっとそこで投げかけたいなと思うのが、まちづくり、商店街づくりなんですね。町長は商工会長として長らくその役を務めてこられましたので、伺いたいなと思うんですが。

その前に、先ほどこっと申しました、選挙戦前に今ビラが配られました。そんな中で、これは私と町長の名誉に関わることなので、ここで述べさせていただきたいなと思いますのが、私たち、私含めてまちづくりを考えていた中で、宮崎町長が誕生したら、私が住んでいるところ一帯を町が買うんじゃないかというような計画。こういった計画は一切ありませんということはお伝えをしたいと。これ当時、商店街づくりを商店街の有志でいろいろ考えている中で、商工会主導でそういった会合、話し合いを進めてきました。その中でポイントになっていたのが、実際に5年とか10年先の商店街を考えたときにどうあるべきなのかと。実際その住んでいる人、商売をしている人います。あと、お金がどれだけかかるかと、そういったことは一旦置いて、どういった町が理想なのかということを商店街の中で話し合い、意見、アイデアを出してもらいました。その中の一つがビラにあった内容なんですね。

そのほかにも、実際にこの商工会を中心とした2番街と言われるこの商店街エリア、こういったところもどのようにしたらよいかということで、3番街、2番街の2パターン、アイデアが出てきました。その中の一つがビラにあったことなんですけど、一番言いたいのは、これ、じゃあ、誰がやるかっていうことなんですけど、これ民間がやるっていうことの話で進めてきてました。要するに、民間活力を地域に生かすと。まちづくり、商店街づくりに生かすということを考えてきました。PPPとかPFIという手法があります。まちづくりに行政がどのように絡むか、民間とどのようにして連携していくかというものなんですけど、実際に、一昨年でしょうかね、岩手県の紫波町というところに行きまして、そこのPPP、PFIの手法を学んでまいりました。

何が言いたいかというと、あの内容にあったことは実際にそんな計画ありませんよと。一方的にビラをまかれて税金でコンビニ建てるのはけしからんと言われて、投票には行かんという方もいらっしゃいました。そんなことで、選挙が歪められるのはあってはならないということだけは、ちょっとここで申し述べさせていただきたいと思います。

商店街づくりをそれだけ、やはり、私たちは真剣に考えなければならない状況になっているんです。実際に商店街の会員数も減少しておりますし、高齢者、後継者の高齢者問題等もありますので、実際にそれをどのように解決していくかっていうことは、これは喫緊の今、課題だと私は考えております。その点において、町長の商店街の今、抱えている課題等をどのように認識されているか、それをどのようにクリアしていくかということまでお聞き願えればなというふうに思っておりますが、いかがですか。

○議長（河野 浩一議員） ただいまの中村議員の意見は、商店街のことはここには書いてないと思うんですけど。だからちょっと控えていただきたいんじゃないかなと思うんですけど。

○町長（宮崎 吉敏君） 中村議員の川南町の課題はという中で、私が様々な課題という表現をさせていただきました。そのことについての質問と捉えています。

商店街について、その前に、すみません、選挙戦に関わるそれぞれの陣営の戦い方と

ということもお話がありました。選挙について、いろんな活動の方法があると認識しております。他陣営のことに關しては、私は述べることはできない。自分の陣営に対しては、しっかりと答えることはできていると思っています。そう一言お伝えして質問に入ります。

商店街についてということで、私も商工会長を12年間務めさせていただきました。そのときに、私が商工会長になったときに、まず一番に掲げたのがトロントロン商店街の活性化です。それはなぜかって言うと、トロントロン商店街は川南町の核であり、もしこの商店街が衰退し失われていくということになれば、私は川南町そのものも衰退すると思っています。ですから、今まで、様々なトロントロン商店街の活性化、ひいては極限は川南町の商店街が生き残れるかです。一番身近な事例で、ほかの行政で商店街が壊滅したという事例もあります。こうなるとは、川南町の活性化は計れないと思っています。

様々な商店街活性化プロジェクト、大学の先生をお招きしてみんなと将来に向けて、商店街がどうあるべきかということを議論させていただきました。今の現在で考えると商店街の各事業者も高齢、先ほど徳弘議員も高齢化という形の質問があったと思いますが、非常に高齢化で次の後継者もいっしょにいない今の段階で、事業を廃業と選んでいっしょの方々もたくさんいっしょにやる。じゃあ、そこをどうするかと。

私は今現在、川南町で事業を行っている方々は、川南町にとって、町民にとって、必要な事業と捉えています。ですから、廃業等を考えていっしょの方々には事業承継等を含めて、何とか存続できないかを模索していきたいと思っています。その中で一番、町民の皆様にもお願いしたいのは、ぜひ商店街、また町内の事業者を利用していただきたい。

まず、地域内資金循環、これはもう商工会の最大のテーマです。町内で資金が回る、これを1回転、2回転、3回転することによって、町内の事業者が潤い、活性化につながると信じています。ぜひ、この問題は、商店街、商工会併せてしっかりと協議していきたいと思っています。

以上です。

○議長（河野 浩一議員） その前に、中村議員も町長も、この商店街のことはこの内容には書いてないから、またの機会に商店街のことを話したいという議題をつくって、そのときに言ってもらいたい。よろしくお願いします。

○議員（中村 昭人議員） 通告から外れてるんじゃないかということで大変失礼をしました。私としては、どうしてもクリアしなければならない課題としてということがあったので、その課題の中の一つで、私としては商店街のことが課題としてあるが、その考えについてどうかということだったので、それが外れているということであれば次回から気をつけたいというふうに思います。

○議長（河野 浩一議員） 気持ちは分かりますが。

○議員（中村 昭人議員） 失礼いたしました。

では、ミニ集会、座談会等を広げて御自身の考え等を広めていきたいと。先ほどから

申しますように、なかなかこの短期決戦での選挙戦の中で、そういった町の将来とか、それぞれの政策議論がなかなか広まらなかったんじゃないかなと。短期でもあったし、そういったビラがあったことによって、そういった雰囲気が醸成されなかったのではないかというふうにちょっと私的には感じております。そこを町長にどうということの質問ではないんですが、そういったものはやはり今後は、私は、あるべき姿ではないなというふうには思っております。

これで次の質問に移りますが、今、町長選挙の中で、なかなかちょっと議論にならなかったことの一つとして、中学校統合ですね。学校の統合再編について、やはり、私はもうちょっと両陣営の考え等が、小中一貫校ということもありましたけれども、どういったお考えなのかなというのは、ちゃんとしっかりお聞きしたかったなということがございます。その選挙戦の争点としてマニフェストには示さなかったのですが、統合再編についての町長の考えはいかがなものかお伺いをいたします。

○町長（宮崎 吉敏君） 選挙戦の争点にしなかったということなんですが、中村議員の質問にお答えいたします。

中学校の統廃合につきましては、教育委員会が所管する事項でありますので、教育委員会の意見を尊重する考えです。教育委員会としては、中学校統合については白紙の状態で、地域を回って意見を聴いております。

また、既存校を利用した場合の費用及び新設の場合の費用を提示した上で、アンケートも実施する予定です。その上で、本年度中に教育委員会としての方向性を出す予定です。

以上です。

○議員（中村 昭人議員） 教育委員会の考えを尊重したいと言う中、それとどういった費用が今後、既存中学校を使う場合とかにおいてかかるのかということを提示するというものでありましたが、教育委員会のお考えについてお伺いしてもよろしいでしょうか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

先ほど、町長のほうから教育委員会の方向性についてということも述べていただいたところなんですけど、まさに今、白紙の状態ということで地域を回っているところがあります。意見を聴く会ということで実施をして、今、まだ取りまとめはできていないんですけど、皆様の御意見を伺っているところです。

それと、先ほどありましたように既存校を利用した場合、それから新設の場合、幾らぐらい費用がかかるのかというのを委託業務のほうで費用を出すように業務を進めているところでもあります。これらの材料をそろえた上で、最終的にはアンケートを実施し、皆様のお考えというものを聴いた上で、その上で教育委員会としてどのような方向性を出すのかということを決めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（中村 昭人議員） 今のお答えでは、先ほど町長も言いましたけど、費用を提示して行うということとアンケートを今後取りたいと。これは、さきの議会でもアンケート、そういった費用等が予算化されておりましたので分かることなんです。実際、費用をこれから出すということで時間がかかるんじゃないかなというふうに思いますが、実際これイニシャルコストとランニングコストですね。要するに最初にどれくらいかかるか、造った場合とか改修した場合にどのくらいかかるかということと、新しく造ったら幾らかかるかって、これ実は前の議会体制のときに詳細な資料があつて、それを議会に説明されています。なので一旦、一度出たことをまたやるということなのかということなんです。実際、じゃあ、前回のとどのような点で今回違いがあるのか、あれば教えていただきたいと思います。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

先ほども申したように、業務委託にて既存校舎を活用した場合と新築の場合の費用の算出を現在行っているところでございます。

前回と比較するとどの辺が変わっているかということなんですけど、前回と比較いたしますと、ただいま物価等も上昇しております、はじいている数字というのもちよつと変わってきているのかなというふうに感じております。今現在、算出することでより現実的な費用になるのではないかというふうに考えております。

また、既存校舎を利用する場合、改築中に仮設校舎も必要になると考えております。そのような建設以外の部分の費用、その辺もしっかり盛り込んで算出していきたいというふうに考えております。

前回におきましては、ランニングコストまで出しておりましたが、なかなか中身が複雑になり分かりにくい部分がありますので、今回はイニシャルコストのみを算出する形で提示をしたいと思っております。

ただ、改築の場合と新築の場合は耐用年数、どれぐらい使えていくか、それからその後の流れ、そういったものも変わってきますので、その辺も詳細に詰めた上で分かりやすい説明をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（中村 昭人議員） 確かに、もう2年、3年たつ中で物価の変動であつたりとか、実際にそのときに入学者等が何人いるかということも違ってくると思いますので、またそういったものに即した数字を出していただけると分かりやすいのかなというふうに思っております。

現在その、どのような、教育委員会として方向性を示したいと先ほどおっしゃいましたが、実際教育委員会が各地を回って意見を集約しておるかと思いますが、どのような声があつたのが、ここでちよつとおっしゃることができればお願いをいたしたいと思っております。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

現在、町内5か所で意見を聴く会を開催いたしました。今後も継続して開催する予定にしております。皆様の声につきましては、現時点ではまだ取りまとめができておりません。今後しっかりと情報を整理した上で、その上で周知をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（中村 昭人議員） 参加した方数人ですが、新しく造ってほしいとの意見が多かったということはお聞きしています。しかし、まだまだ限られた中、限られた対象者の意見とも言えると思いますので、先ほど答弁でありましたように、新設の費用も含めるということだったのですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）そういった費用を出すということでありましたので、ぜひそうしていただきたいと思いますが、しかしながら、前町長の段階では新設をしないという制限をつけた中での統合に対しての教育委員会への投げかけだったというふうに思います。

私としては、白紙に戻すということは、やはり新設も含めた白紙ということが、白紙ではないかということを一貫して申してきたんですが、今後、そういった中でアンケート等を取っていく、進めていく中では、新設も含めた中でやはり統合再編議論をすべきではないかというふうに私的には思いますが、町長の考えはいかがか伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中村議員の質問にお答えします。

全ては中止ということでゼロベース、新しくスタートということになりました。そのことについては、既存の学校もしくは新設校含めて議論すべきじゃないかなという考えを持っております。

以上です。

○議員（中村 昭人議員） 新設を含めていただけるということで、やはり選挙戦の中でも、中学校はどうなるのかということが非常に多く聞かれました。これは若い世代が特になんですけど、若い世代に限らず、多くの世代の中で学校問題を川南町の今の一番の、課題というか、やらなければならないということとして思っているということは、これは間違いないことだというふうに思っております。

私的に思うのは、これまでの議論の中で学校を造る、造らないというのが何かこう、イデオロギー化ですよ、そういったことに変化してしましまして、新聞とかでありましたけども、分断を生んでいるというふうに私的にも思っております。こういったことは非常に悲しいことだなというふうに思います。

今後は、先ほどアンケート、議論の中で私が思うのは、思い込みとか理想論ではなく、根拠や裏づけ、客観的な数字や、やっぱり法律、規則、そういった、いわゆるエビデンスをしっかりと示すことが大事というふうに考えますが、町長、教育長、含めてお考えいかがか伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 議員の質問にお答えします。

様々な情報というものは、しっかりとお示ししたいと思っています。ただ、このこと

については、先ほどの御意見で新校舎をということでお答えをしましたけど、教育委員会の意見等を尊重するという、最初にお答えしました。このことに返りたいと思います。よって、私の思いをこれから述べるということ、この学校についての思いということについては、教育委員会の意見を尊重したいと。で、教育長のほうからお答えがあると思います。

以上です。

○教育長（長曾我部 敬一君） 中村議員の質問にお答えいたします。

教育委員会といたしましても、新設を含めた選択肢の中、法律を尊重しながら幅広く意見の集約を行い、方針を決定いたします。

以上でございます。

○議員（中村 昭人議員） ぜひ、法律と、それは、議論を進めていく中での尊重すべき法律であったりとか、学校の整備等に直接関わる法律等でございますので、しっかりとそこら辺りを示しながらやっていただきたい。

客観的な数字というのは私は、そういった建設費用であったりとかそういったもの、そしてランニングコストですよ、どのくらいこれを改修すると、これを造ると、30年、40年でお金がかかるのかと、そういった中での議論を促していただきたい。そういった前提に立つものをしっかり示していただきたいなと。やはり、今までの議論の中でそこがやっぱりしっかりできてなかったんじゃないかなというのが、やはり、この学校問題の中ではあると私は、数字が独り歩きしていったりとか、そういったものがあるんじゃないかなというふうに思います。

と、今おっしゃいました法律ということで、ちょっとやはりここは今後、学校がどうあるべきかということをお子第一に考えなくちゃいけないというふうに思っております。ですので、学校統合は第一に子供のためであること、現在の学校が抱える課題を解決できるものであるべきだと私は思います。その中でいくと、こども基本法というものがございます。このこども基本法では第11条に、こども施策に対する子供等の意見の反映というのがあるんですが「国及び地方公共団体はこども施策を策定し実施し及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども、又はこどもを養育する者、その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする」とあります。

今後の意見集約の中では、やはり、このこども基本法というものをやはり尊重していただきたい。東地区の座談会でしたでしょうか。保護者の方がそういった申入れ、意見、要望書を出されたこともありますので、しっかり子供の学校ということはどうあるべきなのかという、そこに通う子供ファーストであるべきだというふうに思っております。

一方では、子供のためだからといって、じゃあ、地域、そういった、学校に行かない世代だったりとかをないがしろにしているのかということでは私はないと思うんですね。

じゃあ、実際そのなぜ学校を造ったらいけないのかということ、私はこの中には、建

設費用にかかるお金の不安であったりとか、学校が統廃合されるとその地域、地区から学校がなくなることによるまちづくり、地域づくりへの影響があるということが学校統合、学校の新設には反対だという声があるんだと思います。そこは、私はもう別に否定はしないんですが、実際に、じゃあ、そこをどうやってフォローしていくのかというのは、それ、政治の役割ではないかなというふうに思っております。

ちょっと、これ、町長にお伺いしたいんですが、実際そういった不安、学校を造ることによる、実際自分の生活に何かが及ぶんじゃないかというような不安、こういったものをどのように払拭すべきか、どのように対応すべきかというのがお考えがあればお伺いしたいなと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中村議員の質問にお答えします。

先ほど、こども基本法という形で子供にとってっていう言葉が出てきたと思います。私は、子供のために、これ、新設、既設の学校をとということじゃなくて、全ては基本的に、中村議員がおっしゃいましたように、子供のためについていうのを一番に考えていくべきじゃないかなと思っています。そのために新設をするのか、今ある既存校をリフォームしていくということになろうと思います。

で、前の東町長のときには中止ということを決められました。また、そのときに様々な御意見があったということも承知しております。

今回、教育委員会でアンケート等を地区、地域ごとに意見交換会等を開催して、本当に町民の皆様が思っている言葉を真摯に受け止め、議論を進めていきたいと思っております。

私自身が思ったこと全てが、今回も私、選挙でずっと回らせていただきました。ほとんどの方が中学校の問題をお聞きされました。で、町長になってどうするんですかというお話を伺いました。ただ、今現在、白紙ということでゼロからのスタートです。ただ、いろんな情報が、過去に情報が、町民の皆様には伝わってなかった。それぞれの方々から質問を受けて、下手すると1時間、1時間半そのことだけで話すということもありました。しっかりと、川南町とすれば、町民の皆様には情報を公開して、そして町民の理解を得る、このことが一番大事じゃないかなと思っています。

以上です。

○議員（中村 昭人議員） 学校統合というのは本当にデリケートな問題だと思います。何ていうんですかね、地域にも関わりがあるし、やはり財源的な目線も必要でありますので、しっかり、そういったお金の面、地域的な面っていうものをですね、はっきりと分かるような形で進めていただければなというふうに思いまして、一般質問を終了したいと思います。

先ほど、通告にない話にそれてしまいました。商店街のことについてはまた改めてしたいと思います。大変失礼をいたしました。

以上で終わります。

(午前 10 時 45 分 終了)